

11月21日に豊田小学校で「赤磐市研究指定校園補助事業」に係る授業公開が行われました。

豊田小学校の校内研究のテーマ

対話的な学びを通して、どの子ども「分かる」「できる」を実感できる算数の授業づくり



4年生
「小数のかけ算とわり算」
池嶋知明 先生

キーワード
自分事のめあて
算数の言葉

1年生
「かたちづくり」
延原郁恵 先生

キーワード
イメージと言葉
ICTの活用



4年生は「小数のかけ算」を初めて学習する時間でした。これまで学習してきた「整数×整数」の考え方をいながら子ども達が「小数のかけ算」の解き方について考えました。

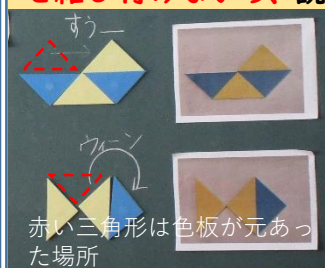
「1両が□mの列車4両分は何m」という問いをなげかけ、□が2の場合は「 2×4 」□が0.2だったら「 0.2×4 」であると子ども達は自分たちで立式できました。その後、「今日の勉強は小数のかけ算だね。」と、自分たちで学習内容をつかみ、めあてをつくることができました。

自分で解き方を考える時には、図や言葉、式などの算数の言葉を用いながら様々な考え方を交流している姿が見られました。

既習内容と比較することで、自ら課題をつかみ、解決までの見通しをもつ。図や言葉、式といった算数の言葉を結び付けて思考し、自分の考えをしっかりとつ。これらの工夫を通して、一人一人が「わかる」「できる」という実感を伴いながら自信をもって意欲的に友達と対話する姿を見ることができました。

1年生は三角形の色板数枚を組み合わせて作った形と元の形から1枚だけを動かした形を比較し、どのように動かしたか思考する学習でした。

板の動かし方に「ウィーン」「すー」「パタン」などの名前を付け、子どもが自分のイメージと言葉を結び付けながら、説明できるようにしました。



前に出て説明する子ども達はみんな自分の表現で一生懸命に伝えていました。聞いている子たちもうなずきながら自分の考えと比べながら聞いている様子でした。

また、子ども達は自分で問題をつくり、友達と交流しました。元の形と動かした後の形をタブレットで写真に撮り、どの色板をどのように動かしたかを考える問題です。写真を見比べながら友達の思考をたどって説明をしていました。ICTの利点を生かした活動で、子ども達の「わかる」「できる」に深まりのある授業でした。

【指導助言者】 ノートルダム清心女子大学 人間生活学部
杉能 道明 准教授

豊田小学校の研究テーマ「対話」と関連付け、算数科の授業についてご講演をいただきました。特に印象的だった言葉は「答えがわかった後が算数で本当に大切なところ」というお話です。

自分の考え(答え)をもった後に、算数の見方・考え方を働かせた対話を行い、よりよい考えに高めていくことが重要であるということです。その対話で必要となるのが算数の言葉であり、今日の授業ではその算数の言葉を大切にしている様子が見られていました。



「対話的な学び」に焦点を当てた研究でしたが、その中には子ども達の「話したい!」「聞きたい!」があふれており、主体的に学びに向かう姿そのものでした。「主体的・対話的で深い学び」につながるヒントをととても多く得ることのできる素敵な研究会でした。豊田小学校の研究成果が参加された先生方を通して市内の学校、子ども達に広がっていくことを期待しています。